



神戸陽子線センター

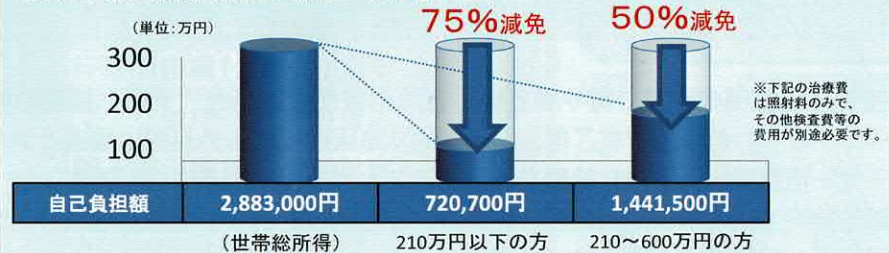
AYA 世代陽子線治療 減免制度を開始しました

がんは中高年の病気ととらえられることが多いですが、若い年代でもがんは発症します。水泳の池江璃花子さん、タレントの小林麻央さん、阪神タイガースの原口文仁選手、古くは松田優作さん、ZARD の坂井泉水さん、夏目雅子さんなど著名人のがん闘病が報道されるたびに世間に大きな衝撃を与えています。若い年代のがんの増加とそれに対する経済的支援の整備の遅れが社会的な問題となっています。若い世代のがんは AYA (Adolescent & Young Adult) 世代のがんと言われ、多くは 15 歳から 39 歳までのがんとして定義されます。この世代は就学、就職、結婚、出産など人生の大きなイベントを迎えることが多い時期で、その時期にがんという大病にかかることは、大きな負担となります。特に 20 歳代 30 歳代の患者さんには小児期のような診療報酬上の支援がなく、経済的にも苦しいと考えられます。陽子線治療においても、20 歳未満で発症した患者さんは保険診療で治療を受けられますが、20 歳を超えると保険診療として治療を受けられず、先進医療制度として 2,883,000 円の治療費が必要になることもあります。神戸陽子線センターでも過去 2 年間に 9 例の 20 歳代 30 歳代の患者さんの治療を行いました。そのうち 2 名の患者さんには 2,883,000 円の治療費をお支払いいただくことになりました。

放射線治療の二次がんは 40 歳以下で発生確率が高いと言われています。その点、陽子線治療は二次がんの確率を減らすことができますので、40 歳以下の患者さんに大きなメリットのある治療法になります。経済的な理由で有効な治療を受けられないことは憂慮すべきことです。

そこで兵庫県では AYA 世代の医療費の減免を今年の 4 月から開始しています。右の図でわかりやすく説明していますので参照いただければと思います。20 歳代 30 歳代の患者さんにも最適な治療が行えるよう神戸陽子線センターのスタッフ一同最善を尽くします。

【陽子線治療費(先進医療)の減免】



○減免対象 20~39歳以下の方

(先進医療の陽子線治療を受ける方で初回の照射日時点の年齢。所得制限あり、国内在住1年以上)

【実施医療機関】 神戸陽子線センター、兵庫県立粒子線医療センター

基本理念

科学的根拠に基づき、がん医療の未来を拓く
陽子線治療を推進します。

基本方針

- 最先端の陽子線治療施設として高精度の放射線治療を提供します。
- がん医療の進展を反映した陽子線治療を行います。
- 小児がんに重点を置いた陽子線治療を提供します。
- 患者さんの意思を尊重し、正確な医療情報に基づいた信頼される医療を行います。
- チーム医療を基本として、温かい医療を推進します。

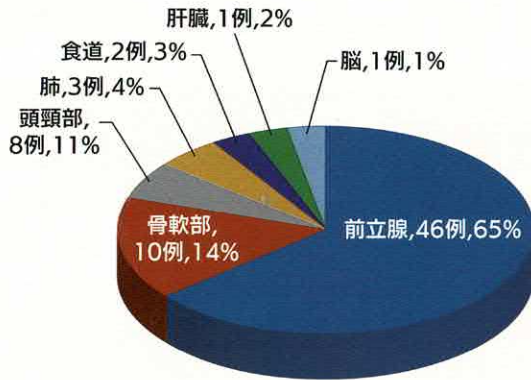


兵庫県立粒子線医療センター附属

神戸陽子線センター
Kobe Proton Center

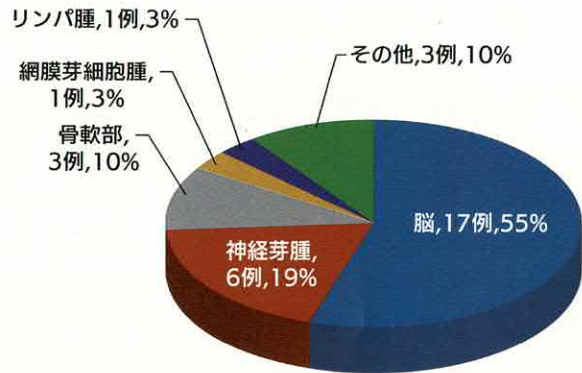
令和元年度下半期の治療実績について

1 成人 <成人の治療実績> (計71例)



前期の63例から順調に増えています。やはり前立腺がんが約2/3と圧倒的に多く、2位の骨軟部腫瘍は前期と同数でした。3位の頭頸部がんは前期から倍増しました。それに続く、肺がん、食道がんは前期と同数でした。今期、成人の脳腫瘍を始め治療しました。

2 小児 <小児の治療実績> (計31例)



前期の29例から順調に増えています。脳腫瘍が多いのが当センターの特徴ですが、やはり6割弱ありました。2位は神経芽腫で、前期のゼロから一気に増えました。3位の骨軟部腫瘍は、前期の約半数でした。令和元年度は計60例治療し、小児がんの陽子線治療数では全国トップでした。

吸収性スパーサー留置併用陽子線治療を開始しました!

腹部・骨盤部の腫瘍で胃や腸といった消化管が近い場合、十分な線量の照射が難しくなりますが、スパーサーといわれる照射終了後、吸収消失する医療材料を外科的に腫瘍と消化管の間に入れることで（スパーサー留置術）、十分な線量を照射できるようになります。当センターでは世界一の症例数を誇る神戸大学医学部附属病院肝胆膵外科と連携しており、高度な治療が可能です。なお、スパーサー、留置術とも保険適用となっています。

下にスパーサー（ネスキープ®）の写真と画像を示します。黄色で囲われたスパーサーは照射終了時には照射開始時とほとんど変わりませんが、終了5ヶ月後では吸収され、消失しています。なお、腫瘍の大きさもほとんど変わっていませんが、骨軟部腫瘍はゆっくりと縮小するものが多く、この腫瘍もこの後ゆっくりと縮小しました（兵庫県立粒子線医療センターの症例）。

当センターでは、これまで4例の患者さん（成人3例、小児1例）に行いました。今後も積極的に行っていく予定です。



「ONE TEAMで、 新型コロナウイルス感染症対策に 取り組んでいます」

～陽子線治療を中断させないために～

感染対策委員会

当センターは、小児（0歳）～成人までの陽子線治療を実施しています。

想定外の感染拡大を見せる新型コロナウイルス感染症に対して、感染対策委員会を定期的を開催し、神戸市、兵庫県、全国の感染状況を把握し最善の対策を講じてきました。当センターは、職員約40名（うち医療スタッフ21名（医師・放射線技師・看護師））の小規模施設であり、職員や患者さんに感染が発生すると、陽子線治療の継続が難しくなります。

「陽子線治療を中断させない」という職員の強い決意のもと、ONE TEAM（職員・患者さん（こどもさん）・ご家族の皆様）で対策を実施しています。



対策内容

(基本的な事ですが)

- 来院前の体調管理(体温測定など)
- 通院患者さん(ご家族の皆様)の行動の自粛(ご協力)
- マスク着用 手指消毒
- 陽子線治療後の電話診察
- 時差出勤
- テレワーク
- 3密の回避
- 環境整備(院内共用エリアの除菌)
- 職員の体調管理(体温測定)など



谢谢

県立粒子線医療センターで治療を受けられた中国の患者さんからマスクの寄附を頂きました。

5月21日に兵庫県は、緊急事態宣言を解除しましたが、今後第2波、第3波が来ることを想定して、引き続きONE TEAMで対策に取り組んでいきます。

Information

神戸陽子線センター マスコットキャラクター



Pro とん
です!
よろしくね!

【ぜひご覧ください】

You tube に当センター紹介動画をアップしました。

当センターは2017年12月にオープンしてまだ2年余ということもあり、皆さんにもっと知っていただけるよう、①当センターの特長、②陽子線の説明、③陽子線治療設備の紹介、④各フロアの紹介等を約6分にまとめた「神戸陽子線センター施設紹介」の動画をYou tubeにアップしました。

この動画以外にも、当センターのチャンネルには、次の4本の動画もアップしていますのでご覧いただければ幸いです。

- ・診療放射線技師・医学物理士の仕事
- ・陽子線治療の説明MOVIE
- ・挨拶MOVIE
- ・ガントリー搬入風景



他の病院でも粒子線外来を行っています

現在、神戸大学医学部附属病院および兵庫県立がんセンターにおいて粒子線外来を開設し、粒子線治療の適応判断も行っています。

神戸大学病院では週1回の粒子線外来を行っています。第1・3・5金曜日は粒子線医療センター・徳丸医師、第2・4金曜日は神戸陽子線センター・出水医師が担当しています。

兵庫県立がんセンターでは週2回の粒子線外来を行っています。月曜日は粒子線医療センター・沖本院長、火曜日は神戸陽子線センター・副島センター長が担当しています。

院内・院外からの初診の他、粒子線治療後のフォローアップも行っています。

院外からの紹介の場合、それぞれの地域連携室経由となります。神戸大学病院は放射線腫瘍科、兵庫県立がんセンターは放射線治療科までお申し込み下さい。



<成人用治療室>



<小児用治療室>

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



神戸陽子線センター

〒650-0047 神戸市中央区港島南町1丁目6番8号
TEL.078-335-8001 (代表) FAX.078-335-8006
<https://www.kobe-pc.jp>